

令和2年度ふぐ処理師試験問題
(ふぐの種類及びふぐ毒に関する知識)

※受験番号を記入してください。

※解答は解答欄に記入してください。

受験番号	
得点	

問1

次の記述にあてはまるふぐの名称を下記の語群から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

問1 解答欄

ア	⑦
イ	③
ウ	⑥
エ	①
オ	④

(ア) 地方名: ナメラ(フグ)、ナメタ(フグ)、ナゴヤ(フグ)

毒性: 無毒=筋肉、精巢
有毒=皮

特徴: 全長50cm程度の中型種。体に小棘(トゲ)はなく、胸びれ後方上部に黒紋があるが、周りは白くない。臀びれは黄色。体色・斑紋は成長と共に著しく変化し、成魚型と幼魚型があるが、幼魚型のままで成熟しているものもある。

(イ) 地方名: アカメ(フグ)、モフグ、オンビキ

毒性: 無毒=筋肉(ただし、三陸沿岸産は有毒)
有毒=皮、精巢

特徴: 全長35cmになる中型種。皮膚に小さいイボ状の突起が密布し、胸びれ後方上部の黒斑はない。背面、体側の黒褐色小斑点の大きさや数は個体によって異なる。

(ウ) 地方名: キタマクラ、サノミフグ、オテラ、オヤマ、アオフグ

毒性: 無毒=筋肉、皮、精巢

特徴: 全長60cmになる大型種。背面・腹面に小棘(トゲ)があり、すべてのひれは鮮やかな黄色。背面・体側に白い縞があり、中には縞が途切れて白点状になったものもある。

(エ) 地方名: サバフグ、サメフグ、サワフグ

毒性: 無毒=筋肉、精巢
有毒=皮

特徴: 全長40cmの中型種。背面・腹面に小棘がある。背面と体側に藍青色の小点が密布しており、臀びれはレモン色である。ただし、若魚の背面は褐色が多い。

(オ) 地方名: トラ、シロ、ホンフグ、モンフグ

毒性: 無毒=筋肉、皮、精巢

特徴: 全長80cm以上に達する大型種。背面・腹面に小棘(トゲ)がある。胸びれ後方上部に黒紋があり、周りは白い。臀びれは白色か紅色で、背面の色彩・斑紋は住み場所、大きさにより異なる。

①ゴマフグ ②クサフグ ③ヒガンフグ ④トラフグ ⑤ショウサイフグ
⑥シマフグ ⑦マフグ

※解答は解答欄に記入してください。

得点	
----	--

問2

次の(ア)～(エ)は、ふぐ毒(テロドトキシン)の性質と特徴に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 毒性が強く、青酸カリの約10倍と言われている。
- (イ) 酢などの弱い酸では破壊されないが、塩酸・硫酸などの濃いものでは破壊される。
- (ウ) 熱には比較的強いが、100度以上に加熱をすると弱酸性下では熱分解を起こす。
- (エ) テロドトキシンを有するヒトデや貝などに対しては毒作用がない。

問2 解答欄

ア	×
イ	○
ウ	×
エ	○

問3

次の(ア)～(キ)は、ふぐの生体と毒性に関して述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 日本で捕れる多くのふぐの筋肉は無毒であり、弱毒のものも存在するが、大量に食べない限りは、中毒を起こす心配はない。
- (イ) 卵巣と精巣を合わせ持った両性ふぐの場合、卵巣を取り除けば、精巣を取り除く必要はない。
- (ウ) ふぐの肝臓は「かくしぎも」「抱きぎも」と呼ばれており、毒性がないものが多く、珍味として扱われている。
- (エ) 一般に、クサフグ・ショウサイフグの口ばし・ひれは毒性が低く、食用とされている。
- (オ) ふぐの卵巣は毛細血管が多く、断面には空洞がなく、軟弱で豆腐又はヨーグルト状を呈する。
- (カ) ふぐの皮や臓器1gで体重20gのマウスを10分で死亡させる毒量を1 MUといい、ふぐ毒の強さを表す単位として使用される。
- (キ) マフグ・アカメフグの血液は有毒であり、十分洗い落とす必要がある。

問3 解答欄

ア	○
イ	×
ウ	×
エ	×
オ	×
カ	×
キ	×

問4

次の文章はふぐ毒による中毒症状について述べたものです。正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 知覚麻痺、運動麻痺ののち、呼吸麻痺が起こり死に至る。
- (イ) 血圧上昇、体温下降などが起こる。
- (ウ) 症状は速くて30分程度で、遅いものでも2～3時間で発症する。
- (エ) 中毒症状が出た場合は、早急に解毒剤を使用すると、回復が早い。

問4 解答欄

ア	○
イ	×
ウ	○
エ	×